

歴史を  
活かした  
景観  
まちづくり  
ガイド

札幌景観資産などの魅力を知り活用する



札幌にはたくさんの  
歴史を伝える

**景**観資源があります

これまで

人々の営みの中で

長い年月を重ねてきました



札幌の歴史を

**生**活を感じさせるもの



地域に根付き

地域の**顔**となっているもの

**愛**着があり

地域の誇りとなっているもの



その姿を今に

**伝**えているもの

いろいろな価値を持っています



**歴**史的な景観資源は

先人たちが築き守ってきたもの

長い時が流れ **時**代を重ねてきたもの

これからは私たちが暮らしの中で

守っていきましょう



札幌の個性を活かした

**魅**力あるまちと景観を

つくっていくために 歴史的な景観資源は

なくてはならないものです



これらの歴史を重ねた

ものを **活**用しながら

みんなでまちづくりを

進めていきましょう



身近にある歴史的な景観資源と

**協**調することで

地域の価値をさらに高めていくこと



それが歴史を活かした

景観まちづくりの目標です

## さっぽろは どんなまち？

札幌は、周囲を取り巻く山々に囲まれ、市街地には多くの河川が流れ、四季の景観が楽しめる街です。

そのような自然環境の中、開拓使によって雇い入れられた外国人技師たちによる近代的な知識や技術によりまちづくりが進められてきました。

屯田兵をはじめ全国からの開拓民によりつくられてきた周辺町村との合併を繰り返して拡大してきた札幌は、それぞれの地域に固有の歴史がある街です。

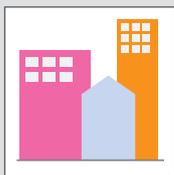
地域の  
歴史の記憶を  
見つけること  
ができます

何気なく通りすぎている風景の中に、急に細くなる道路や曲がりくねった坂道、ちょっと古そうな建物などを見つけることができます。

画一的になってきた近年の街並みに、ちょっと変化を与え特徴づけているそれらは、よく見るとその地域の歴史の記憶であることがあります。

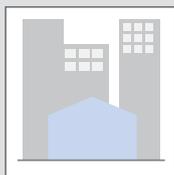
### 《歴史的建造物等を取りまく状況》

現在、市内の多くの歴史的建造物等は、必ずしもまちづくりに活かしきれていない状況です。



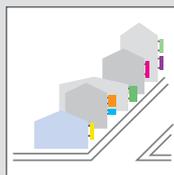
#### ■ 周囲の色彩

周囲の建物などの色彩が調和していない。



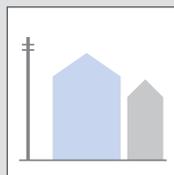
#### ■ 圧迫感

周辺や背景の建物が圧迫感を与え、埋没している。



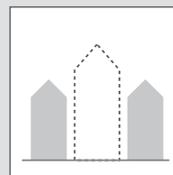
#### ■ 雑多な看板

無秩序な看板などにより、周辺が雑然とした風景となっている。



#### ■ 視界を遮る

電柱や分電盤などの工作物により、視線を遮っている。



#### ■ 取り壊し

老朽化や開発などにより、歴史的建造物が取り壊されてしまう。

## そこから 地域を見つめ なおして みましょう

地域の特徴や古い建造物、樹木など歴史の記憶から地域を見つめなおしてみましょう。歴史に対する共感、地域の誇りや愛着をはぐくみ、まちづくりの原動力となります。

## 歴史的 建造物等を 活かして みましょう

特に建物や樹木は、空間を特徴づけ質を高める大切な資源です。

建物を建てる際などには、近隣の歴史的建造物などを活かしたデザインや空間づくりを考えてみませんか。

それは、その歴史的建造物等の価値を取り入れた所でしかできないものです。お互いの価値を高めあい、地域の魅力の向上を図りましょう。

## みんなで 協力しま しょう

歴史を活かしたまちづくりは、地域固有の景観を創出し、地域の魅力の発信にもつながります。

市民・事業者・行政がお互いに協力しあうことが大切です。



知ろう

歴史的景観資源を知る

歴史的景観資源の  
価値を知る

## 第 1 章 歴史的景観資源を知ろう

- 1 歴史的景観資源とは** ..... 05
- 2 歴史的景観資源の価値を知る** ..... 07
  - (1) 歴史的価値 ..... 09
  - (2) 地域的価値 ..... 11
  - (3) 文化・芸術的価値 ..... 13
  - (4) 環境的価値 ..... 15
  - (5) 活用価値 ..... 17
  - (6) 思い出価値 ..... 19
- 3 地域の身近な建物や樹木を  
チェックしてみよう** ..... 21

見  
て  
み  
よ  
う

歴史的景観資源の  
立地・構成パターンを  
知る

歴史的景観資源の  
状況を知る

## 第 2 章 街かどの歴史的景観資源を見てみよう

- 1 立地・構成パターンの紹介**
  - (1) 歴史的建造物の立地パターン ..... 23
  - (2) 樹木の構成パターン ..... 24
- 2 実際に見てみよう**
  - (1) 歴史的建造物 ..... 25
  - (2) 樹木 ..... 35

活  
か  
そ  
う

地域で考える

## 第 3 章 地域でまちづくりに活かそう

- 1 歴史的景観資源の活かし方**
  - (1) 歴史的景観資源への配慮 ..... 39
  - (2) 地域での活用の仕方 ..... 41
- 2 いろいろな事例紹介**
  - (1) 苗穂駅周辺のまちづくり ..... 42
  - (2) 石山地区の取り組み ..... 43
  - (3) 旧小熊邸の移築・復元の取り組み ..... 44
  - (4) エドウィン・ダン記念館の保存・活用 ..... 45

- 資料  
札幌の歴史的景観資源 ..... 46

## 第 1 章

### 歴史的景観資源を知ろう

<b>1</b>	歴史的景観資源とは	05
<b>2</b>	歴史的景観資源の価値を知る	07
	(1) 歴史的価値	09
	(2) 地域的価値	11
	(3) 文化・芸術的価値	13
	(4) 環境的価値	15
	(5) 活用価値	17
	(6) 思い出価値	19
<b>3</b>	地域の身近な建物や樹木を チェックしてみよう	21

# 1 歴史的景観資源とは

札幌市では、景観上や歴史上重要なものとして、建物や樹木などを法や条例に基づき指定し、保存・活用に努めていますが、市内にはその他にも、地域にとって大切にしていけるべきものが多く存在します。

本ガイドでは、法や条例に基づき指定されているものや、今後価値を知り大切にしていけるべきものも全て含めて『歴史的景観資源』としています。

## 《法や条例に基づき指定されているもの》

### 法に基づき指定しているもの

景観法（良好な景観の形成に重要な建造物・樹木）  
 【景観重要建造物】 【景観重要樹木】  
 文化財保護法（歴史上又は芸術上価値の高いもの）  
 【登録有形文化財】【指定文化財】  
 ＊重要文化財  
 ＊道指定文化財  
 ＊市指定文化財 等

### 条例に基づき指定しているもの

【札幌景観資産】(札幌市都市景観条例)  
 【道条例保護地区】(北海道自然環境等保全条例)  
 【保護樹】(北海道自然環境等保全条例)  
 【保存樹】(札幌市緑の保全と創出に関する条例) 等

## 《今後価値を知り、大切にしていけるべきもの》

### 自治体等が独自に選定しているもの

【さっぽろ・ふるさと文化百選】  
 【各区での選定】 等

### 学術団体等の組織が選定しているもの

【北海道遺産(北海道遺産構想推進協議会)】  
 【DOCOMOMO\*】  
 【近代化産業遺産群(経済産業省)】  
 【選奨土木遺産(土木学会)】  
 【近代土木遺産(土木学会)】 等

### 組織や制度上の指定、選定はされていないが考慮が必要なもの

【地域の歴史・文化を語るもの】  
 【地域にとって誇り・愛着のあるもの】 等

※DOCOMOMO

(=Documentation and Conservation of buildings,sites and neighbourhoods of the Modern Movement)：モダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織



豊平館



清華亭



知事公館



旧市民会館前のハルニレ



時計台



北海道庁旧本庁舎

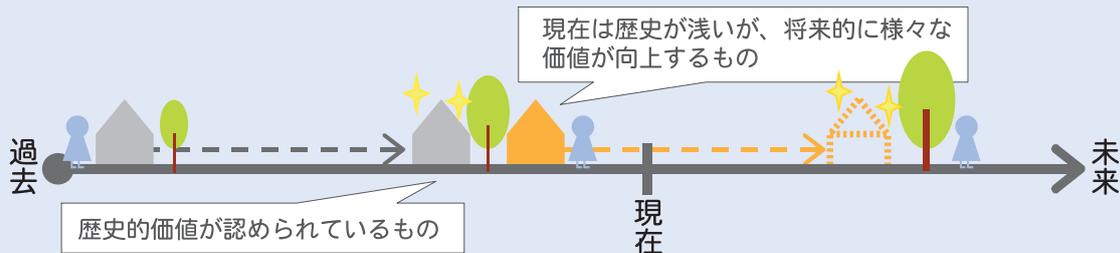
『地域の歴史性』

歴史的景観資源は地域の歴史を物語っています。

現時点においてはまだ歴史が浅く、法や条例による指定はされていませんが、地域の景観形成において大切なものや、時間の経過とともに、これから歴史的価値が向上していくものもあります。

その他、地域にとって誇り・愛着のあるものや地域交流などの促進、観光に寄与しているものなども含まれます。

登録有形文化財では築50年以上のものを登録条件としていますが、近代の建築では築25年程度で歴史的価値を持つこともあります。このように、場所や時代によって時間軸は変化していくということも踏まえた上で、将来を見据えた歴史的景観資源の捉え方が重要になってきます。



## 2 歴史的景観資源の価値を知る

1

歴史的景観資源を知ろう

歴史的景観資源は、建物自体の建築年代が古く、建築様式に時代の特徴があることはもちろん、地域の歴史と密接に関わっていたり、暮らしの文化を物語っているなど、様々な価値を持っています。

このような様々な価値は、以下のような視点から読み取ることができます。

● 歴史的価値

● 地域的価値

● 文化・芸術的価値

● 環境的価値

● 活用価値

● 思い出価値

### 歴史的景観資源のみどころ

#### れんがの積み方もいろいろ

札幌市内には「赤れんが庁舎」として親しまれている北海道庁旧本庁舎や、札幌製糖会社の工場であったサッポロビール博物館など、れんが造りの建物が数多く残っています。「赤れんが庁舎」は、白石村（現在の白石区）を中心に、豊平村や月寒村（現在の豊平区）などで製造された約250万個のれんがでできており、国内でも比較的珍しいフランス積み（れんがの長手と小口を交互に並べた積み方）でつくられています。



フランス積み



イギリス積み



アメリカ積み



ドイツ積み



長手積み



1



2



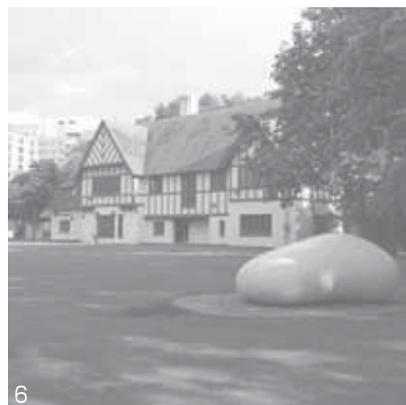
3



4



5



6



7



8



9

1. 旧小熊邸 2. 時計台 3. サッポロビール博物館・ビール園 4. 日本基督教団札幌教会 5. 旧市民会館前のハルニレ 6. 知事公館  
7. 三誠ビル 8. 杉野目邸 9. 札幌聖ミカエル教会

### 歴史的景観資源のみどころ

## 厳しい気候に強い?! 下見板張り

札幌に残る木造建築の多くは外壁を「下見板張り」で仕上げています。

これは「下見板」という横板を、下部から数センチメートルずつ重なるように張っていくもので、アメリカから移入された工法です。構造が単純で、雨仕舞も良いことから、開拓期の建築工法の主流でした。

時計台や豊平館がその代表格です。



## (1) 歴史的価値

歴史的景観資源は、人類の活動でつくり出したものとして、広く歴史の中で価値を持っています。その価値とは、建設年代が古いことによって生じる価値を基本とし、現在までの時間の経過によって加えられたさまざまな価値を含みます。例えば建築物では、登録文化財の対象となる建築後50年(半世紀)を経ているものや、めまぐるしく建て替えられる近現代建築に対しては25年(四半世紀)を経ているものを時間軸と考える場合もあります。さらに、特別の由緒・由来がある、特徴的な工法・材料が用いられている、現在では再現が容易でない技術・技能が用いられている、著名な設計者や施工者、職人の関わりがあることや、緑環境も含めて地域の歴史をたどる上で大切または希少であることなどが、歴史的価値として評価されています。

これらには、伝統・建築様式、構造・材料、構法・施工、環境・設備などに関する技術や時間の積み重ねが継承されて、社会の出来事の痕跡や記憶がとどめられており、歴史的景観資源が巨大な記憶装置となっているところに見出される価値です。



### 北大第二農場穀物庫

(北区北18条西8丁目・明治10年(1877年)築)  
クラーク博士の指導下で建設された有畜大規模農場施設の一つ。スノコ状の外壁と高床式の建物で、明治10年建設、同42年移築。典型的なバルーンフレーム構造の小屋組がみられる。

- 建設年代が古い
- 時間の経過によって加えられた価値がある
- 建築様式が時代の特徴を伝えている
- 特徴的な工法・材料が用いられている
- 再現が容易でない技術・技能が用いられている
- 著名な設計者や施工者、職人の関わりがある など



### 旧市民会館前のハルニレ

(中央区大通西1丁目)

かつての豊平館前の庭園の一角にあったものと考えられる。昭和33年の豊平館移築後もそのままの位置に残された。市内中心部に残る数少ない古木であり、歴史性や存在感も十分で、樹容も整っている。



### 時計台

(中央区北1条西2丁目・明治11年(1878年)築)

札幌を代表する明治初期洋風建築で、かつ札幌農学校(現北海道大学)がこの場所にあったことを示す唯一の証。バルーンフレーム構造の2階の演武場兼講堂は、時計台ホールとして市民の人気も高い。



### 清華亭

(北区北7条西7丁目・明治13年(1880年)築)

明治4年開設の札幌初の公園「偕楽園」に、貴賓接待所として同13年に建設。開拓使を代表する和洋折衷の建物である。



### 三誠ビル

(中央区南1条西13丁目・大正13年(1924年)築)

大正13年建設の、現存鉄筋コンクリート造ビルとして札幌最古参の建物。設計者田中豊大郎は、大正8年から北大建築事務所長として医学部、工学部の創設工事を担当した。



### 札幌市資料館

(中央区大通西13丁目・大正15年(1926年)築)

全国の7控訴院のうち、現存する2つのうちの1つ。札幌軟石の重量感ある外観であるが、れんが造と石造および2階床、階段、柱を鉄筋コンクリート造とする混構造を採用している。



### 北星学園創立百周年記念館

(中央区南4条西17丁目・大正15年(1926年)築)

札幌初の女子中等学校である北星女学校の教師館として大正15年に建設。札幌で活躍したスイス人建築家マックス・ヒンデルの代表作の一つである。



### 旧小熊邸

(中央区伏見5丁目・昭和2年(1927年)築)

フランク・ロイド・ライトの弟子であり北海道を代表する建築家田上義也(1899-1991)の代表作。施工は札幌を代表する建設業者篠原要次郎。郊外住宅地として発展した旧円山村のモダン住宅の代表例でもある。平成10年に現在地に移築。

## (2) 地域的価値

札幌は、北海道開拓の拠点として開拓使により計画的にまちづくりが進められた都心部を中心として、農村や郊外住宅地として発展した周辺町村との合併を繰り返しながら拡大してきたため、それぞれの地域に固有の発展形成の歴史があります。

そのため、歴史的景観資源には、地域や都市の形成過程を示すものや、地場産業の歴史を伝えるものがみられます。

中心市街地や郊外住宅地としての発展過程を物語るもの、都市の形成過程を示す施設や地域の発展に寄与した近代化遺産、周辺旧村落地区の形成や地場産業の歴史を伝えるもの、地域の歴史と密接に関わる由緒・由来のある施設や緑環境なども、地域的価値として評価されます。



### 旧三谷牧場牛舎・サイロ

(西区発寒8条13丁目・昭和3年(1928年)築)

明治39年に現JR発寒駅北側で牧場を開き、これらの建物は昭和初期に鉄道南側にレンガ造で建設。現在、カフェレストランとして再利用され、市民に親しまれている。周辺が大変貌する中、酪農地帯であった発寒の歴史を伝える貴重な地域遺産である。

- 市街地形成の歴史を物語っている
- 地域固有の建築種別の典型例である
- 産業と地域の発展に寄与している
- 地場産業の歴史を伝えている
- 地域の歴史と密接に関わっている など



### 苗穂小学校学校記念館

(東区北9条東13丁目・昭和12年(1937年)築)

昭和12年に移転新築した苗穂小学校の旧校舎の一部を、ほぼ元の位置に記念館として保存。市街地に唯一残る戦前期の木造校舎で、当時の典型的な小学校教育の場を伝えている。



### 三誠ビル

(中央区南1条西13丁目・大正13年(1924年)築)

南1条通りの角地に建つ元藪合名会社の自社ビル。多数のテナントを収容しつつ、ほぼ当初の外形を保持しており、当時最先端にあった事務所建築の姿を今に伝えている。



### 旧真駒内牧牛場用水路

(南区・明治12年(1879年)築)

明治12年エドウィン・ダンの提唱で掘削された真駒内牧牛場の用水路。その後、平岸や豊平、白石の水田の発展に寄与した。一部は真駒内団地の緑道として、快適な散策空間となっている。



### レンガの館

(西区八軒1条西1丁目・昭和4年(1929年)築)

昭和4年建築の元野菜缶詰工場。マンションの共有施設として保存活用されているれんが建築は、かつて工業地区として栄えた琴似駅周辺地区の貴重な記憶である。

### 円山公園内のヨーロッパクロマツ

(中央区宮ヶ丘)

明治13年に道庁周辺にあった札幌官園が円山養樹園として移された際に、その入り口に植えられたという。国内外の樹木を試験栽培する同園の開設は、円山地区発展のきっかけともなった。



### 石山緑地

(南区石山)

米人技師アンチセルらの発見で始まった札幌軟石の採掘場跡。明治7年から採石された、札幌や周辺地域に建つ石造建築のふるさとである。石山地区の発展を支えた最大の石切り場が、見事な芸術空間に甦っている。



### 旧簾舞通行屋(旧黒岩家住宅)

(南区簾舞1条2丁目・明治5年(1872年)築)

札幌における通行屋の唯一の遺構。明治5年、小休所として設置され、同19年に現在地に移築。後に役場出張所や私設教育所などにも利用された。明治30年代増築の住居部分も簾舞地区最古の開拓農家遺構である。

### (3) 文化・芸術的価値

歴史的景観資源は、人々の構想力と想像力により創り出したものであり、そこには社会と人々との生活が表現されています。

文化的価値とは、歴史的景観資源に込められた生活や社会の姿に宿るものであり、都市の繁栄や暮らしの文化を物語るもの、地域の特徴的な素材が活かされているもの、優れた緑景観を形成しているなど、社会全体の到達点を示すものです。

芸術的価値とは、外観・内部の意匠・デザインが優れている、構造物としての魅力や迫力を有しているなど、その時代の新しい空間表現、構造・造形美などによる価値です。

これらの客観的な判断には専門家への相談等も必要ですが、絵やスケッチ、写真に収めたくなる魅力等、主観的、心情的な判断基準も加えられる価値です。

- 都市の繁栄や暮らしの文化を物語っている
- 意匠・デザインが優れている
- 構造物としての魅力や迫力を有している
- 地域の素材が活かされている
- 優れた緑景観となっている など



#### 豊平館

(中央区中島公園・明治13年(1880年)築)

明治13年建設、昭和33年に現在地に移築された開拓使の代表的な初期洋風建築。内外意匠の各所に和風意匠も見られる。昭和61年完成の復元修理工事で、白色系とウルトラマリンブルーの鮮やかな外観が復元されている。



#### 日本基督教団札幌教会

(中央区北1条東1丁目・明治37年(1904年)築)

木造教会の焼失後、明治37年再建の木骨石造教会。札幌軟石を外観に活かし、ロマネスク風の塔やゴシック風の尖りアーチとバラ窓など、近代ビルが立ち並ぶ中心市街地の中で、個性豊かな表情を見せている。



**サッポロビール博物館・ビール園**

(東区北7条東9丁目・明治23年(1890年)築)

明治23年建設の札幌製糖工場を、同36年に麦酒醸造に改修転用し、昭和40年まで工場として使用された。内部の防火床構造や、外観のアーチ窓などに往時の姿をとどめ、魅力ある造形を見せている。



**旧北海道庁立図書館**

(中央区北1条西5丁目・大正15年(1926年)築)

大正11年の摂政宮(皇太子)行幸を記念し、同15年に道庁建築課の設計により建設。古典的な構成をアレンジした風格ある図書館で、当時の都市文化の香りを伝えている。



**旧北海道湯**

(東区北7条東3丁目・明治末期～大正初期築)

当時の札幌市街北東端部に位置する元銭湯。切妻三角屋根にれんが造の外観は、ほぼ当初のまま。明治から大正期の街の繁栄と暮らしを伝えている。



**八紘学園資料館サイロ**

(豊平区月寒東1条13丁目  
・昭和18年(1943年)頃改築)

明治末頃建設の巨大な石造サイロ1基を解体移築の際2基にした。直径18尺、高さ37尺の石造サイロが並ぶ姿は迫力ある景観を見せている。かつて農村地域であった月寒のシンボルでもある。

## (4) 環境的価値

歴史的景観資源が周囲の景観や良質な居住環境の形成に寄与している点を評価して得られる価値があります。例えば、歴史的景観資源が良好な街並みや都市環境の形成に寄与している、ランドマークとしての役割を果たしている、街路樹や並木による豊かな緑環境を提供していることなどです。

そのような歴史的景観資源が保存活用されていくことは、景観や環境にとってきわめて重要です。

- 良好な都市環境や居住環境を提供している
- 豊かな緑環境を提供している
- 景観のランドマークやシンボルとなっている など



**北大イチョウ並木**  
(北区北13条西5～7丁目)

北大医学部創設に伴い大正11年に整備された北13条通り約350mの両側に70本ほど並ぶ。最初の桜と楓から、昭和14年頃にイチョウに変更された。豊かな緑景観の並木に成長し、黄葉時には多くの観覧者が訪れている。



**安春川**  
(北区)

明治23年に屯田兵が掘削した灌漑用水路。市街化の進展で枯渇し荒廃したが、まちづくりと一体となった河川改修により、せせらぎの回復や遊歩道が整備され、良好な憩いの空間を提供している。



**北海道庁旧本庁舎**

(中央区北2・3条西5・6丁目  
・明治21年(1888年)築)

「赤れんが庁舎」として広く親しまれている、札幌を代表する歴史的建造物。昭和43年の復元改修で八角塔も再現され、シンボル性も強まった。手入れの行き届いた前庭と池、豊かな植栽と協調して良好な景観を形成している。



### 知事公館

(中央区北1条西16丁目  
・昭和11年(1936年)築)

三井合名会社別邸で、同28年から知事公館として活用。漆喰の白い壁と赤茶色の木骨に緑青(ろくしょう)がはいった銅板屋根の建物が緑豊かな庭園と調和し、中心市街地にオアシス空間を提供している。



### 資生館小学校のオオモミジ

(中央区南3条西7丁目)

明治29～昭和40年まで西創成小学校があった場所で、植栽時期はかなり古い。樹形がすばらしく、現小学校の新築時に保存措置がとられ、シンボリックな景観を創出している。



### サッポロファクトリーレンガ館

(中央区北2条東4丁目・明治25年(1892年)築)

札幌麦酒会社が日本最大の近代工場として開拓使麦酒醸造所跡に建設。平成3年レンガ館として再生。北3条通りに面して建つ姿は、道庁に通じるかつてのメインストリートの面影を偲ばせる。



### 杉野目邸

(中央区南19条西11丁目・昭和8年(1933年)築)

元北海道帝国大学の教授宅で、昭和8年に同大学技師の設計で建築。湾曲した木組みや柱梁形を見せる特徴的な外観の建物が、ほぼ同時期に植えられた外国産針葉樹の樹木群とともに、豊かな居住環境を見せている。

## (5) 活用価値

歴史的景観資源は、都市や地域のイメージを高め、地域特性を育む価値を持っています。また、文化・コミュニティ施設や商業施設として活用されたり、市民の憩いの場となっているもの、さらに地域社会の中で文化振興、生涯学習、地域交流を促進し観光に寄与するなど、地域の活用価値として評価されます。

- 文化・コミュニティ施設として活用されている
- 商業施設として転用されている
- 市民の憩いの場となっている
- 地域ブランドとなっている
- 観光名所となっている など



### レンガの館

(西区八軒1条西1丁目・昭和4年(1929年)築)

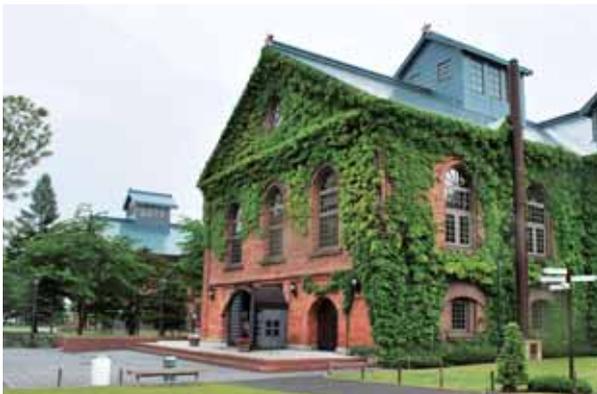
元野菜缶詰工場で、戦後工場移転後も貸倉庫や喫茶店として利用されていた。JR琴似駅北口の再開発事業で、集会施設として保存再生され、一部コミュニティ放送のスタジオにも活用されている。

### 札幌市資料館

(中央区大通西13丁目・大正15年(1926年)築)

大正15年建設の札幌控訴院を、昭和48年の移転に伴い転用。内部は、街づくりの歴史展示のほか、1階の旧民事法廷は「おおば比呂司記念室」、旧刑事法廷は復元展示、2階諸室は文化活動の貸室として市民に活用されている。





### サッポロビール博物館・ビール園

(東区北7条東9丁目・明治23年(1890年)築)

札幌製糖工場を転用したビール工場時代が60年以上も続いた。その後も記念館、ビアホールに活用され、「サッポロビール園」として全国に知られる。周辺環境と協調した北海道らしい景観が、札幌のイメージアップにもつながっている。



### 鴨々川

(中央区)

豊平川から分流し中島公園西側をゆるやかに蛇行、すすきの南東部を経て創成川につながる。自然河川だが古くから人の手が加わり、鯉が放流され、散策や子供の水遊びなど、中島公園とともに緑豊かな憩いの場となっている。

### 岩佐ビル

(中央区北3条東5丁目・昭和25年(1950年)築)

札幌には珍しい中庭タイプのビルで、昭和25年第1期工事完成の翌年から貸しビル業に転換。飲食店やインテリアショップなどが入居し、向かいのサッポロファクトリーレンガ館と呼応し、レトロな雰囲気のある街並みを形成している。



### つきさぶ郷土資料館

(豊平区月寒東2条2丁目・昭和16年(1941年)築)

北部軍司令部司令官官舎として昭和16年に完成。戦後に北大学生寮となり、昭和60年から洋館部分を郷土資料館として活用している。外観・内部とも創建時の姿を保つれんが建物は、地元町内会が運営する月寒の歴史的シンボルである。

## (6) 思い入れ価値

歴史的景観資源は、そのもの自体の価値に加え、地域に住む人たちが愛着を持って、保全や活用の取り組みをしていくことがきわめて大切です。

市民の働きかけや保存活動が見られるもの、特別な愛称等で親しまれているもの、まちづくりや市民活動のきっかけとなっているもの、地域住民やコミュニティにとって欠くことのできないものや、地域住民の深い愛着が込められているものは、十分価値を有しているといえます。これらは、思い入れ価値として、地域社会の活性化やコミュニティの成立にとって重要な共有資産です。

あらゆる歴史的景観資源には公共性があり、生活の基盤としての価値を持っているといえます。また、歴史的景観資源の用途・機能が社会に与える影響や社会に果たしている役割に着目して評価することも必要です。



### 北星学園創立百周年記念館

(中央区南4条西17丁目・大正15年(1926年)築)

大正15年建設の元北星女学校女教師館。創立百周年(昭和62年)を記念して、平成元年に構内で移転改修し、創建時の1階ライラック、2、3階からし色に復元された。女子生徒が名付けた「かぼちゃ館」の愛称で親しまれている。

- 市民の愛着がある
- 特別な愛称で親しまれている
- まちづくりや市民活動のきっかけや拠点となっている
- 絵画や写真の題材となっている など



### 大学村の森横のハンノキ

(東区北28条東4丁目)

ハンノキは、かつてこの辺りの基調植生であった。昭和58年の道路整備で樹木が伐採されようとした時、地元の小学生が市長へ直訴したのをきっかけに残された。地元住民の思いが込められた記念碑的樹木である。



### 旧小熊邸

(中央区伏見5丁目・昭和2年(1927年)築)

市民らの保存活動の結果、平成9年に移築保存が決まった。専門家・行政・企業との連携により、翌年喫茶店として再生。藻岩山ふもとに豊かな憩い空間が生まれた。また、一連の活動からNPO法人「旧小熊邸倶楽部」も誕生した。



### エドウィン・ダン記念館

(南区真駒内泉町1丁目・明治20年(1887年)築)

明治20年建設の旧真駒内種畜牧場事務所。真駒内団地造成に伴い解体予定であったが、地元有志が「エドウィン・ダン顕彰会」を設立し、建物半分を移築し記念館として再生。現在も地元町内会が管理運営している。



### 苗穂小学校学校記念館

(東区北9条東13丁目・昭和12年(1937年)築)

昭和56年の校舎改築時に、卒業生や地域住民の熱心な働きかけにより保存された木造校舎の一部。2階には教室が残され、資料展示とともに郷土学習の場として活かされている。

### 安春川 (北区)

国のふるさとの川モデル事業として全国にさがし、昭和63～平成3年度に改修整備されて再生。それを機に、多くの地元グループが「安春川を愛する会」を組織して新たな活動を始めた。地域遺産の再生が、まちづくりを広げる種となった。



### ぼすとかん

(南区石山2条3丁目・昭和15年(1940年)築)

定鉄旧石切山駅(大正7年)の向いにある旧特定郵便局で、地元産軟石で建設。当初から周辺地域の集会所的存在で、旧駅舎とともに石山のシンボルとして親しまれ、現在もまちづくり活動や集会などに使用されている。

## 2 地域の身近な建物や樹木をチェック✔してみよう

1

歴史的景観資源を見極めよう

### 歴史的価値

ある(いる)

そうでもない

- 建設年代が古い
- 時間の経過によって加えられた価値がある
- 建築様式が時代を伝えている
- 特徴的な工法・材料が用いられている
- 再現が容易でない技術・技能が用いられている
- 著名な設計者や施工者、職人の関わりがある

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### 地域的価値

- 市街地形成の歴史を物語っている
- 地域固有の建築種別の典型例である
- 産業と地域の発展に寄与している
- 地場産業の歴史を伝えている
- 地域の歴史と密接に関わっている

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### 文化・芸術的価値

- 都市の繁栄や暮らしの文化を物語っている
- 意匠・デザインが優れている
- 構造物としての魅力や迫力を有している
- 地域の素材が活かされている
- 優れた緑景観となっている

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### 環境的価値

- 良好な都市環境や居住環境を提供している
- 豊かな緑環境を提供している
- 景観のランドマークやシンボルとなっている

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### 活用価値

- 文化・コミュニティ施設として活用されている
- 商業施設として転用されている
- 市民の憩いの場となっている
- 地域ブランドとなっている
- 観光名所となっている

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### 思い入れ価値

- 市民の愛着がある
- 特別な愛称で親しまれている
- まちづくりや市民活動のきっかけや拠点となっている
- 絵画や写真の題材となっている

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>